



眼圧日内変動の予測因子の検討

2016年4月1日より2022年10月31日までに日本医科大学付属病院眼科にて、眼圧日内変動測定検査を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「眼圧日内変動の予測因子の検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2016年4月1日より2022年10月31日までに日本医科大学付属病院眼科にて、iCare Home®による眼圧日内変動測定検査を受けた患者さんのデータを調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：眼圧日内変動の予測因子の検討
研究期間：研究実施許可日～2026年3月31日
研究責任者：日本医科大学付属病院 眼科 中野 優治

(2) 研究の意義、目的について

緑内障は40歳以上の5%に認める頻度の高い病気で、我が国では視覚障害の原因疾患として最も多い重要な疾患です。現在、確実に効果のある治療法は眼圧を下降させることのみですが、眼圧は血圧のように一般の方が購入できる測定器具はなく、基本的には病院に受診しなければ測定できません。さらに眼圧には日内変動があり、緑内障患者さんは正常な人と比較して眼圧日内変動が大きいこと、多くは夜間や早朝など診察可能時間外に眼圧のピークを迎えることが報告されています。日内変動が大きいことは緑内障進行のリスクが高いことも知られていて、眼圧日内変動を知る事は非常に重要です。しかし、眼圧日内変動は入院して測定したり、専用の機械を貸し出して測定するしか方法がなく開業医などでは検査に限界があるのが現状です。そこで眼圧日内変動を一般的な眼科検査の結果で予測することができれば、検査・治療方針の決定に大きな意義を持つと考えます。眼圧日内変動の予測因子は未だ明らかではないため、本研究は臨床上有用となると考えています。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2016年4月1日より2022年10月31日までに日本医科大学付属病院 眼科外来を受診し iCare Home®による眼圧日内変動測定を行った患者さんのデータ（眼科的検査、画像検査など）を解析し、眼圧日内変動と相関を認める因子についての検討を行います。この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。試料はありません。年齢、性別、患者背景、眼科的検査（眼圧日内変動、外来時眼圧、前房深度、眼軸長、角膜厚、視野など）、画像検査、治療法

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 眼科 病院講師 中野 優治
〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24261

メールアドレス : n-yuji@nms.ac.jp